



<b>News</b> 新着情報	<b>Faculties</b> 教員紹介	<b>Thesis &amp; Articles</b> 卒論・修論・博論 研究論文	<b>History</b> 講座の歩み	<b>Gallery</b> 調査、授業の 様子など	<b>Classes</b> 授業・時間割
<b>Links</b> リンク& 旧ページリンク	<b>Contact</b> 講座の紹介 問い合わせ	<b>Archaeology</b> 考古学	<b>Cultural Anthropology &amp; Museology</b> 文化人類学・博物館学	<b>Ethnolinguistics</b> 民族言語学	<input type="text"/> <input type="button" value="検索"/>

【重要なお知らせ】講座改組のおしらせ [\(詳しくは→\)](#)

TOP

- [R1.12.3 旧北方文化論講座のHPについて](#)
- [H31.4.23 2018年度の論文をアップしました](#)
- [H31.3.9 【学芸リカプロ】公開成果報告会](#)
- [H31.2.17 講演会『キウス周堤墓群と縄文にハマる人々』@千歳](#)
- [H31.3.16 連続講演会・講座『続縄文文化へのまなざし』](#)
- [H31.3.21・26 公開講演会 ヤクーチア考古学の最前線](#)
- [第1回北大考古学談話会開催【終了報告】](#)
- [H30.11.24 日本文化政策学会 企画フォーラム1 @九州大学](#)
- [H30.11.23-24 ここまで分かった！東日本における農耕文化の展開](#)
- [H30.10.6-7 北方民族文化シンポジウム 網走](#)

## 講座の背景

北方文化論講座では、考古学、文化人類学、民族言語学という、それぞれに性格の異なる3つの学問分野が、「北方」と「フィールドワーク」を共通項として研究を行っています。

人類の先史から現代へ、日本列島から北東ユーラシア、環北太平洋地域へと、広大な時間と空間における物質文化から精神文化、言語文化までを対象にしています。いずれかの分野に軸足を置いて専門的研究を深めながら、人類史をトータルに見つめる広い学際的視野を身につけることができます。

このたび、北海道大学大学院文学研究院・文学部の改組・開設にともない、2019年3月をもちまして北方文化論講座は講座設立より四半世紀あまりの歴史に幕を下ろすことになりました。

これまでの長らくのご厚意に感謝申し上げますとともに、今後は新たに発足した考古学研究室・博物館学研究室を引き続きお見守り下さいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

北方文化論講座のあゆみ（2019年4月） **new!**

北方文化研究施設（1966～1995）

### 1966 文学部に附属施設として北方文化研究施設設置

《考古学部門担当教員（在任年）》

大場利夫（1966～76）、大井晴男（1966～95）、林謙作（1976～95）

[助手] 重松和男、菊池俊彦、木村尚俊、天野哲也

### 1973 文化人類学部門設置

《担当教員》

岡田宏明（1974～79）、黒田信一郎（1975～91）、渡辺仁（1980～83）、煎本孝（1985～95）

[助手] 井上統一、北構太郎、池谷和信

[NEWS](#) | [教員紹介](#) | [卒論・修論・博論・研究論文](#) | [講座の背景](#) | [ギャラリー](#) | [時間割](#) | [問い合わせ](#) | [TOP](#) |

Copyright (C) 2013 Hokkaido University Graduate School of Letters Northern Culture Studies. All Rights Reserved.

研究紀要として『[北方文化研究](#)』（1965～1995全22号）

北方文化論講座（1995～2018）

1995 [文学部改組にともない、北方文化論講座設立](#)

《担当教員》

考古学分野：大井晴男（～1997）、林謙作（～2001）、天野哲也（～1999）、

小杉康（1997～現在）、加藤博文（2001～2010）、高瀬克範（2011～現在）

文化人類学分野：煎本孝（～2012）、菅豊（1996～99）、佐々木亨（2000～現在、博物館学も担当）

民族言語学分野：津曲敏郎（1998～2016）

2019 [4月より文学部改組にともない、北方文化論講座は新たに発足した考古学研究室、博物館学研究室に移行しました](#)

## 講座・教員紹介

研究分野 : 博物館経営学、民族学

### 佐々木 亨 教授

対象 : ミュージアム、評価、経営、ガバナンス、文化政策、北方先住民文化 (より詳しい業績については→[こちら](#))

研究分野 : 考古学、物質文化論研究

### 小杉 康 教授

対象 : 日本列島を中心とした人類文化を考古学的に研究(より詳しい業績については→[こちら](#))

研究分野 : 先史考古学

### 高瀬 克範 准教授

対象 : 弥生時代・続縄文時代の考古学、カムチャツカ半島の地域研究など(より詳しい業績については→[こちら](#))

# 文化人類学・博物館学

投稿日: 2018年7月17日 作成者: bunka

～佐々木ゼミで学び。研究する～

北方文化論講座へようこそ！

北方文化論講座 佐々木研究室へようこそ！

## 「フィールドワーク」

これが佐々木研究室の研究精神を表すキーワードです。研究のフィールドに出向いて、その地域や環境で生活、活動している人たちの姿を見つめます。そのことにより、フィールドでしか会うことができない事実をすくい取り、そこから導かれる考察を研究の大切な柱の一つにしています。

1. 博物館学・文化人類学への招待 文学研究科教授 佐々木亨
2. 修士課程（博士前期課程）
3. 博士課程（博士後期課程）
4. 研究の部屋
5. 研究のアウトリーチ活動など
6. 留学生の紹介
7. 博物館における写真投影法による観覧行動研究に関するデータ提供について

佐々木研究室に所属するすべての院生が、それぞれのフィールドで研究に邁進しています。

北方文化論講座 佐々木研究室は博物館学と文化人類学の2つのコースで構成され、現在、学部に3名、修士課程11名、博士課程9名の学生と2人の研究生が在籍しています。（2018年4月現在）

# 1. 博物館学・文化人類学への招待 文学研究科教授 佐々木亨

投稿日: 2017年1月27日 作成者: bunka

## ■博物館学コース

歴史系博物館、美術館のほか、動物園、科学館などすべてのミュージアムが研究対象

「博物館学」と聞いて、具体的な内容をイメージできるでしょうか。

ひとことと言えば、ミュージアムを運営していくにあたり必要なスキルやスタッフが共有すべき考え方やミュージアムのあるべき姿、あるいはミュージアムやそのコレクションの歴史などを研究する学問分野です。

文学部・文学研究科にある講座ですので、ここで研究対象とするミュージアムは歴史系博物館や美術館と思われがちですが、そうではありません。水族館、動物園、植物園、企業博物館、科学館などすべてのミュージアムにおいて研究が可能です。

例えば、2015年度大学院修了生は「博物館における外部性の評価に関する研究」、「公立博物館の自己評価に関する研究」「ユニバーシティ・ミュージアムの経営実態に関する博物館的研究」「企業博物館における公共的価値と経済活動の背反性解消に関する研究」「博物館におけるボランティアの意識に関する研究」などのテーマで修士論文を書きました。

## ▼学芸員資格～ミュージアムの活動に必須の資格を取得する～

学芸員とは、ミュージアムに勤める専門スタッフのことです。展示や教育プログラムを企画・実施し、コレクション（または動植物）を収集・保存・育成したり、研究したりします。いわばミュージアムを演出する黒子のような存在です。私もかつて、北海道立北方民族博物館（網走市）で、文化人類学の視点から北方先住民文化を紹介する学芸員として勤務していました。

学芸員資格を取得するためには、博物館概論や展示論、資料論、博物館実習などの9科目を履修します。私もこれらの科目の一部を担当しています。北大生であれば、文系・理系を問わず、すべての学部生（2年生から）・大学院生が資格取得のための科目を受講できます。





## ■文化人類学コース

現地に滞在、人との交流などフィールドワークに基づく調査研究

当講座の文化人類学は長い歴史があり、1966年に文学部に設置された北方文化研究施設を前身としています。1995年の組織改編によって、この施設は文学部北方文化論講座となり、文化人類学・考古学・民族言語学の三分野を総合する講座としてスタートし、のちに博物館学が加わり四分野となりました。

北方文化研究施設当時から引き継がれている伝統は、「フィールドワーク」にもとづく調査研究を進めていることです。文化人類学は、文化を通して、人と人との関係性を明らかにする学問です。そのため、研究対象とする地域に長期間滞在し、地域の人びとと良好な関係を築きながら、一緒に日常生活に参加したり、ハレの行事に係わったりしながら、人びとの行動を観察し、考えを聞き取りしていきます。

例えば、大学院生の研究テーマでは、「豪雪過疎地域における自助共助」、「中国朝鮮族におけるシャーマニズム的現象」、「北海道平取町におけるアイヌ古式舞踊とその認識」「補完代替医療における人類学的研究」などがあります。いずれも、地域やそこに住む人々との関わりをもとに研究を行っています。

また、人と動物の関わりについて研究している大学院生もいます。「江戸時代におけるツル類と人との関わり」、「エゾオオカミをめぐる歴史と文化」などです。これらの研究では、全国の図書館などをフィールドとして、さまざまな文献資料を渉猟しています。

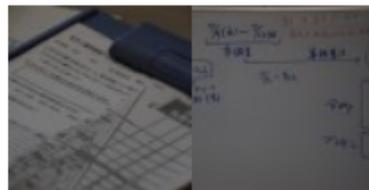
## ○授業の例○

### 北方人類学演習 フィールドワーク実践

ここでは、文化人類学において大切な「フィールドワーク」や「調査」における基本的技術についての講義・演習を行います。（詳しくは[北海道大学ホームページのシラバス](#)を参照）

文学部だけでなく、他の学部生、または院生と一緒に計画を作りフィールドワークを行います。椅子にずっと座り講義を聴くのではなく、自分たちが話し合い、教室の外での活動もあるアクティブな講義となっています。





## 2. 修士課程（博士前期課程）

投稿日: 2016年6月1日 作成者: bunka

### 2. 修士課程（博士前期課程）

修士過程は、最低2年の修学期間にテーマに沿って計画を立て研究を進めていきます。研究活動と並行して研究の基礎となる文化人類学・民族言語学・考古学などの講義や演習を履修し、自らの知識、スキルを高めていきます。

冬は暖房の効いた研究室で暖まったり、夏は戸外で北大名物のジンギスカンをしたり、オン・オフの切り替えもしっかりと！ 研究室には誰かが持ってきたお菓子があったりして、つつい話が弾んで食べ過ぎちゃったり…。

みなさんも北方文化論講座で楽しい研究生生活を送ってみませんか？ 私達は熱い思いのあなたが来るのを待っています!!



### 3. 博士課程（博士後期課程）

投稿日: 2014年9月6日 作成者: bunka

#### 3. 博士課程（博士後期課程）

博士後期課程の修学期間は最短3年、最長で6年間です。この間の最大の目的は博士論文を執筆して学位を取得することです。研究計画を立て、研究に関わるさまざまな活動を進め、研究論文Ⅰ・Ⅱの執筆というハードルを越え、少しずつ目的達成に近づいていきます。

現在の文化人類学・博物館学研究室では、博士課程に在籍する院生の研究テーマ・関心領域が多岐に渡っているため、それぞれ独自の研究スタイルで活動しています。

博士課程では、自分自身が取り組む研究テーマを「自分の力で」どこまで突き詰めることができるのか、常に考えながら研究を進めることが大切です。

## 4. 研究の部屋

投稿日: 2017年7月4日 作成者: bunka

大学院生、専門研究員の研究テーマを紹介します

○梅木佳代 博士課程3年 「エゾオオカミをめぐる歴史と文化」

○許 銀珠 (シュイ インジュ) 博士課程3年 「中国朝鮮族のシャーマニズム的現象」



○三宅美緒 博士課程2年 「芸術祭と地域づくり」

○古田ゆかり 「企業博物館における公共的価値と経済活動の背反性を解消する新たな視点」  
博士課程2年

○卓 彦伶 (タク ゲンレイ) 博士課程2年 「博物館における地域連携のあり方について」

○新井藤子 修士課程2年 「B・ピウスツキの関与した1900年パリ万博資料の掘り起こしと展示の様相の解明」

○王 汀 (オウ テイ) 修士課程2年 「ターゲットマーケティングによる博物館体験の向上に関する研究」

○青木彩峰 修士課程1年 「公共文化施設の地域社会における受容」

○亀丸由紀子 修士課程1年 「博物館展示における文化の表象と多様化」

○神田いづみ 修士課程1年 「北海道の博物館における考古学展示」

○張 偉伊 (チョウ・エイ) 修士課程1年 「美術館における幼児期の参加型プログラムの分析」

○山本晶絵 修士課程1年 「北海道アイヌとシマフクロウ」

○久井貴世 専門研究員 「ツルと人との関係史」

## 5. 研究のアウトリーチ活動など

投稿日: 2014年9月19日 作成者: bunka

### 5. 研究のアウトリーチ活動など

#### ■小西 信義

**「雪はねボランティアツアー」で北国の人々の暮らしに貢献しています。**

寒冷豪雪地帯である北海道では、雪による死傷者や交通・建物への被害が毎冬の悩みの種です。このように雪は「厄介者」である一方、さまざまな北国の文化も育んできました。そのうちの 하나가雪かきです。僕の研究テーマは、雪かきの道具・文化の変遷や雪かきをめぐる地域内外の自助・共助です。北国の文化を掘り起こすことは、雪の問題の解消に向けたヒントを探すことでもあると考えます。そこで、北国の人びとの生活の向上に貢献できるように、「雪はねボランティアツアー」（札幌発着型の広域的除排雪ボランティア派遣事業）の企画に役立てたり、雪かきの方法をレクチャーする市民講座でお話させてもらったりと、研究成果を還元するアウトリーチ活動も行っています。

雪はねボランティアツアー（2014年2月 岩見沢市美流渡地区）

雪かき授業（主催；NPO法人札幌オオドオリ大学）（2013年2月 札幌市内）

#### ■小坂 みゆき

**若手研究者自身による研究交流の場「北海道歴史文化研究会」を行っています。**

現在、私は博士後期課程を修了し、専門研究員として講座に所属しております。

博士後期課程にさしかかった頃から、研究会運営という活動が少しずつ増えてきました。その中でも、自分たちで立ち上げたものに「北海道歴史文化研究会」があります。講座や大学の垣根を越え、かつ、北海道から研究成果を発信することはできないか、という思いから、2012年、院生3人で立ち上げました。文学研究科には、研究会や研究グループは多く存在するものの、院生のみで企画・運営し、研究会を開催する研究グループは少ないようです。現在、運営委員は9名で、当

講座の小西さんもそのうちの一人です。研究会は、北海道において歴史学・人類学を専攻する、もしくは両者に関連する学問領域を対象とする若手研究者が研究上の交流を行うことで、世界で活躍する研究者を輩出する集団となることを目指しています。

研究会の運営内容は、運営委員の人脈や情報による発表者・コメントーターの選出、講演の交渉、日程調整、会場の手配、ポスター作成・広報、当日の司会、ニュースレターの発行などです。研究の合間を縫っての運営となるので、大変な部分もありますが、諸先生や先輩方に支えられ、今年で3年目、計14回の研究会を開催しました。

## 6. 留学生の紹介

投稿日: 2016年6月27日 作成者: bunka

留学生を紹介します

### ○許 銀珠 (シュイ インジュ)

出身地：中国

「中国朝鮮族のシャーマニズム的現象」

中国朝鮮族は、主に朝鮮半島からの移民やその末裔からなっております。朝鮮半島にはシャーマニズムの担い手として巫堂がおります。現地の研究者によって1990年代に確認された巫堂が最後で、それ以降は後継者も確認されておりません。資料源が希薄ではあるが、巫堂がしていたことを手掛かりに、今日の中国朝鮮族のシャーマニズム的現象として文化人類学的に調査しております。

所属学会：韓国・朝鮮文化研究会、朝鮮族研究学会

### ■卓 彦伶 (タク ゲンレイ)

出身地：台湾

「地域博物館における市民参加活動とまちづくりの関わり」について研究しています。研究生の時を含めて、北大に来てもう一年を経ちました。最初はすごく緊張していましたが、先生と先輩たちはみんなやさしく話してくれて、ホットしました。

佐々木先生と先輩たちは研究に関する相談にいろいろ乗っていただけるので、安心して研究に望むことができます。研究室では普段から研究についてのディスカッションをしたり、楽しい雑談をしたりと北大での学びを楽しんでいます。

### ■王 汀 (オウ テイ)

出身地：中国

「ターゲット・マーケティングによる博物館体験の向上」について研究しています。最初は研究生として半年ほど勉強し、それから大学院に入学しました。自分の研究について緊張や不安な気持ちもありましたが、佐々木先生と先輩方はやさしく相談にのってくださるので、今は安心して、自分のペースを探しつつ研究を進めています。

北方文化論講座では、博物館での実地調査や博物館のリニューアル展示作りなど、いろいろ新しいことが体験できて、北大での研究生生活を楽しんでいきます。

## 博物館における写真投影法による観覧行動研究に関するデータ提供について

投稿日: 2017年7月21日 作成者: admin

2016（H28）年度 修士課程2年の相良 真緒が、修士論文「写真投影法による小学生の観覧行動研究－神奈川県立生命の星・地球博物館を事例に－」を提出しました。

本調査の1次データを、他館での観覧行動研究において参考にしたいとのご要望がありましたので、このたび調査データならびに論文を公開いたします→[こちら](#)

また、論文本編・資料編をご希望の方は、添付の論文（概要）の最終ページをご参照の上、講座までご連絡ください。

カテゴリー: [文化人類学・博物館学](#) [パーマリンク](#)

## 卒論・修論・博論・研究論文

2018

2017

2016

2015

2014

2013

2012

2011

2018

### ■卒業論文

「土器型式分布域の拡大・縮小  
について－北海道石狩低地帯及

び周辺における縄文前期前半を対象として－」（考古学）

「縄文文化の土偶造形研究におけるジェンダー観について」（考古学）

「フォントが展示解説パネルの文章に及ぼす影響に関する研究－可読性と判読性を基準に－」（文化人類学）

「言語の文法的・語彙的特徴が与える話者の認識への影響－英語・フランス語・日本語の比較を通して－」（文化人類学）

### ■修士論文

「博物館と先住民の共同に関する研究－博物館報告・ガイドラインを事例として－」（博物館学）

「歴史民族学の観点からみるアイヌとフクロウの関係史－民族調査の記録と文献史料の比較・検討を通して－」（文化人類学）

### ■博士論文

今泉 和也 「古典期前期マヤにおける国家形成の研究－三足円筒土器と「テオティワカンの影響」－」（考古学）

2017

### ■卒業論文

「緑色岩系石材の流通と磨製石  
斧－北海道における縄文早期か

ら縄文中期にかけて－」（考古学）

「擦文土器製作時の作業環境について～K39遺跡農学部実験実習棟地点の土器圧痕の分析を通して～」（考古学）

「石錘の機能と用途－北海道南西部における縄文早期から中期にかけて－」（考古学）

### ■修士論文

「博物館と来館者のコミュニケーション・プロセスに関する研究—札幌芸術の森美術館を事例に—」（博物館学）

「噴火湾北岸域における縄文前期前半の土器群の研究—豊浦町小幌洞窟遺跡・礼文華遺跡における土器群構成分析法の実践—」（考古学）

#### ■研究論文

II 「古典期マヤにおける『テオティワカンの影響』の実態について—三足円筒土器の分析を通して—」（考古学）

I 「1970年代以降の博物館における連携活動の変遷について—生涯学習施策と学会誌の分析を通して—」（博物館学）

I 「企業が企業博物館に期待する要素と企業博物館の機能に関する考察」（博物館学）

2016

#### ■卒業論文

「オホーツク土器沈文系前半期土器群の研究—香深井A遺跡魚

骨層IV出土資料の分析を通して—」（考古学）

「涌元式土器の研究—館野遺跡出土資料の分析を通して—」（考古学）

「アイヌ文化展示における共同作業の現状と今後の課題」（文化人類学・博物館学）

「アイヌ民族に関する法律の変遷と新たな法律に求められる方向性について—海外先住民における事例と比較して—」（文化人類学）

#### ■修士論文

「写真投影法による小学生の観覧行動研究—神奈川県立生命の星・地球博物館を事例に—」（博物館学）

2015

#### ■卒業論文

「北海道出土古銭の研究」（考古学）

「アイヌのイクパスイにおける彫刻の分類に関する考察—動物の意匠を中心として」（文化人類学）

#### ■修士論文

「クワとスキに関する考古学的考察」（考古学）

「補完代替医療における文化人類学的研究」（文化人類学）

「公立博物館の自己評価に関する研究—留萌市海のふるさと館の事例を中心に—」（博物館学）

「企業博物館における公共的価値と経済活動の背反性解消に関する研究」（博物館学）

「博物館における外部性の評価に関する研究」（博物館学）

「ユニバーシティ・ミュージアムの経営実態に関する博物館学的研究」（博物館学）

「博物館におけるボランティアの意識に関する研究」（博物館学）

「ミュージアムへの社会的連携に関する—考察」（博物館学）

#### ■研究論文

II 「北海道アイヌの水辺の「妖怪」について—「河童」・「湿地のおばさん」・「大蛇」に関する伝承—」（民族言語学）

#### ■博士論文

久井 貴世 「江戸時代におけるツルの生息実態および人との関わり」（文化人類学）

白 尚輝（ベック・サンヤップ）「地域言語学的観点から見たツングース諸語—ウデヘ語のビキン方言を中心に」（英文）（民族言語学）

2014

#### ■卒業論文

「縄文後期後半における住居址未検出の要因について—炉址構

造の分析による—」（考古学）

「アイヌ民族との共同作業についての考察—アイヌ文化に関する博物館特別展示の事例から—」（文化人類学）

「北海道アイヌとシマアケロウの関係—地域・時代差から捉えるなおす名称と送り—」（文化人類学）

「徳島県出身北海道移民と藍作についての研究」(文化人類学)

「補助動詞に関する日韓対照研究」(民族言語学)

#### ■修士論文

「東日本における鉄斧の研究」(考古学)

「韓国の国立博物館文化財団における収益事業に関する研究」(博物館学)

「舞踊に対する認識－北海道平取町におけるアイヌ古式舞踊を通して－」(文化人類学)

「満洲語再活性化に向けた活動と問題点」(民族言語学)

#### ■博士論文

小西 信義 「北海道豪雪過疎地域における除雪活動に関する人類学的研究」(文化人類学)

2013

#### ■卒業論文

「北海道、青森における韃のほぐちの研究」(考古学)

「小幌洞穴遺跡出土石器の使用痕分析」(考古学)

「風土考古学の確立に向けて－対雁2遺跡を例として－」(考古学)

「青竜刀形石器の機能について」(考古学)

#### ■修士論文

「円筒上層式土器の容量データベースの構築とその活用法」(特定課題研究)(考古学)

「北海道南西部における縄文後期墓制の研究」(考古学)

「カザフ語における動詞の自他対応」(民族言語学)

#### ■研究論文

Ⅱ「北海道、旧産炭地域における除排雪活動に関する人類学的研究」(文化人類学)

Ⅱ「ツングース諸語の副動詞-miに関する研究」(民族言語学)

Ⅰ「江戸時代におけるツル類の分布と季節移動－西日本における事例－」(文化人類学)

Ⅰ「北海道の更新世末における石器群の研究－十勝地域を対象とした狩猟採集民の石材消費戦略に関する考察－」(考古学)

#### ■博士論文

山田 祥子 「ウイルク語北方言の文法と言語接触に関する研究」(民族言語学)

オマケのリンク：[「泥縄式卒論についての一考察」](#)

2016年度まで教鞭をとられた津曲 敏郎先生の手による、卒論執筆を控えた学生達に語り継がれるロングセラーエッセイです。

2012

#### ■卒業論文

「日本列島における洞穴利用の変遷」(考古学)

「古代日本における鉄刀について－特に蕨手刀を中心に－」(考古学)

「オホーツク文化の動物利用－出土遺存体の検討－」(考古学)

#### ■修士論文

「歴史系博物館と近接過去展示の現状についての基礎的研究」(博物館学)

「ミュージアムにおけるオリジナルグッズ開発の現状と課題に関する考察－東京都内の美術館の事例を中心に－」(博物館学)

「チベットアムド地域におけるル口祭の文化人類学的研究」(文化人類学)

「アラスカの更新世末期から完新世初頭の細石刃石器群」(考古学)

「オホーツク文化の動物利用－出土遺存体の検討－」(考古学)

II 「北海道、旧産炭地域における除排雪活動に関する人類学的研究」 (文化人類学)

I 「タンチョウと人との関係史」 (文化人類学)

I 「ウデヘ語の動詞接辞-duに関する研究」 (民族言語学)

I 「物語からみるアイヌの「河童」の多様性」 (民族言語学)

#### ■博士論文

小坂みゆき 「朝鮮族の民族誌的研究－年中行事と人生儀礼における文化変化と移動－」 (文化人類学)

2011

#### ■卒業論文

「少数民族言語教育の現状について」 (民族言語学)

「説話：儀礼などから見る熊の異類婚」 (文化人類学)

「トビニタイ土器編年再考」 (考古学)

「遺跡の保護・保存・活用とエコミュージアム構想」 (考古学)

「U字形クワスキ先の研究－北海道および東北北部の事例研究－」 (考古学)

「周堤墓の成立とその系譜について」 (考古学)

「環状列石と集落遺跡との関係について－鷲ノ木・同4遺跡を例にして－」 (考古学)

#### ■修士論文

「沖縄県糸満市「真栄里大綱引き」の祭祀的世界－その伝統文化の実践と継承をめぐる動態－」 (文化人類学)

「博物館における映像展示の効果－北大総合博物館における展示映像「未来を拓くPEM形燃料電池」を事例として－」 (博物館学)

「博物館における「年報」分析－都道府県立総合・歴史博物館、美術館の事業報告の現状と課題－」 (博物館学)

「北海道噴火湾沿岸と宮城県気仙沼湾沿岸における縄文後期漁労活動の比較研究」 (考古学)

「ウデヘ語の疑問詞相関構文に見られる言語接触」 (民族言語学)

#### ■研究論文

II 「ウイルタ語の動詞活用と時制－直説法肯定の述語形式について」 (民族言語学)

I 「シベ語の方向を表す格について」 (民族言語学)